

北見工業大学学報

第 273 号 (2016 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨 拶	平成 28 年学長年頭挨拶……………	2
入 試	平成 28 年度編入学試験(第 2 次募集)の実施……………	4
	平成 28 年度推薦入試の実施……………	4
	平成 28 年度大学入試センター試験の実施……………	4
研 究 助 成	平成 27 年度共同研究の受入状況……………	5
	平成 27 年度受託研究の受入状況……………	5
	平成 27 年度奨学寄附金の受入状況……………	5
受 賞	社会環境工学科富山和也助教が第二十回舗装工学奨励賞を受賞……………	6
	本学教員・学生が 2015 年度 JC-IGS 論文賞を受賞……………	7
	本学学生が北の四大学ビジネスプラン発表会で優秀賞を受賞……………	8
諸 報	学長と事務職員との意見交換会を開催……………	9
	研究ユニット研究報告会を開催……………	10
	冬休み親子工作教室を開催……………	11
	小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施……………	12
	教員推薦図書企画展示を開催……………	13
	地域を彩る食物語に出展……………	14
	札幌モーターショー 2016 に出展……………	15
	事務職員のための講演会を開催……………	16
日 誌	12 月・1 月……………	17

= 年頭挨拶 =

平成28年学長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

この正月は、天気が荒れることもなく、穏やかな過ごしやすい正月であったかと思います。皆様におかれましては、北見らしい青空のもと、良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

例年、この新年交礼会では、昨年一年を振り返るとともに、今年の予定を報告していますが、大学を取り巻く厳しい環境についての報告でいっぱいになるような状況です。

今年の4月からは、第3期中期目標期間に入ります。国立大学は、それぞれの大学の強み・特色を最大限に生かし、教育研究はもとより地域貢献を推進する必要があります。そのためのさらなる改革が求められています。

本学におきましても、社会のニーズに対応した教育研究組織の再編は急務であり、平成29年4月の学部改組を目指し、文部科学省と折衝を重ねています。教職員の皆様方には、様々な作業を短期間で行っていただいております、この場をお借りしまして感謝申し上げます次第です。

博士前期課程の改組につきましては、当初は、学士課程との同時改組を目指していましたが、諸般の状況を勘案し、学士課程の学年進行が完了する平成33年度とする予定です。今後、大学院の志願者数及び進学者数の増大が重要になります。現在進めている学士課程の改組が一段落する平成28年度から、大学院改組についての検討を開始する予定です。

また、第3期において、国立大学は機能強化の方向性に応じた3分類から1つ

を選択することとされ、本学は「地域活性化の中核的拠点となる大学」を選択しています。この分類の評価がどのように反映されていくかについて、まだ具体的に示されておりませんが、大学間の競争が激化することは避けられません。いま、本学が生き残るための大きな分岐点にさしかかっているといえます。

平成28年度予算につきましては、昨年末に文部科学省から総額等の内示がありました。執行部で内容を精査しているところですが、運営費交付金全体で2,000万円強の減額となっています。また、昨年10月には財政制度等審議会提言が出されました。「国立大学の運営費交付金を毎年1%削減することに併せて、自己収入を毎年1.6%増加させることで、15年後の平成43年度までには、運営費交付金と自己収入の割合を同水準とする」といった内容の提言です。この提言に沿った予算編成は、文部科学省、国立大学協会の努力により、平成28年度の実施は見送られましたが、平成29年度以降につきましては予断を許しません。社会情勢から判断して、今後、運営費交付金確保がこれまで以上に厳しいものとなることは避けられないものと思われます。

本学が発展し続けるためには、全教職員の英知を結集して、教育研究の個性化や機能強化に継続して取り組む必要があります。併せて、地方創生が叫ばれる中、国立大学をエンジンとした地域の活性化が社会からも強く求められているところであり、地域における本学の存在

意義を確立していく必要もあります。そのためには、本学財政基盤の強化は必要不可欠です。学内資源の効果的な再編や再配分も進めていきますが、皆様にも外部資金の獲得や経費の節減等により、お力添えをいただきますようよろしくお願いします。

さて、平成 27 年度も終盤に入りました。1 月 16 (土)、17 日 (日) には、大学入試センター試験が実施されます。例年のことながら、試験の実施にあたり、入試委員の先生方及び入試課はもちろんのこと、監督等を担当される皆様におかれましては、気を引き締めて御対応いただきますようお願い申し上げます。

続いて、3 月 12 日 (土) に後期日程試験が行われます。例年、本学と大阪会場の二つで実施してきましたが、今年は新たに東京会場を設けることとしました。このことにより、志願者が昨年よりも増えることを期待しているところです。

また、現在、第一総合研究棟 3 階の改修工事を実施しています。これは、現在

情報処理センターにある第一演習室と第二演習室を、第一総合研究棟 3 階に配置するためのものです。この改修と、本年 10 月に予定しているキャンパス ICT 基盤システムの更新により、学生の学修環境と利便性の向上が期待されます。

これら以外にも、各部局で様々な取り組みが実施されましたし、また実施予定でもあります。こうした様々な取り組みが進められるのも、すべての教職員の皆様の御支援、御協力があつて可能になっていることです。この場を借りまして、心から感謝申し上げます。

最後になりますが、地方国立大学の本学を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、その厳しさに負けることなく、教職員の皆様が御家族とともに、この 1 年間心身ともに健やかに暮らせることを心から祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学長 高橋 信夫



= 入試 =

平成 28 年度編入学試験（第 2 次募集）の実施

（入 試 課）

11 月 17 日（火）、平成 28 年度編入学試験（第 2 次募集）を実施し、12 月 9 日（水）に合格発表を行いました。各学科別の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	7	0	0	0
社 会 環 境 工 学 科		0	0	0
電 気 電 子 工 学 科		1	1	0
情報システム工学科		1	1	1
バイオ環境化学科		0	0	0
マテリアル工学科		0	0	0
合 計		2	2	1

平成 28 年度推薦入試の実施

（入 試 課）

11 月 27 日（金）、平成 28 年度推薦入試を実施し、12 月 9 日（水）に合格発表を行いました。各系列の合格者数等については下表のとおりです。

系・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者
機械・社会環境系	機械工学科	40	69	69	43
	社会環境工学科				
情報電気エレクトロニクス系	電気電子工学科	35	50	50	35
	情報システム工学科				
バイオ環境・マテリアル系	バイオ環境化学科	28	35	35	28
	マテリアル工学科				
合 計		103	154	154	106

平成 28 年度大学入試センター試験の実施

（入 試 課）

平成 28 年度大学入試センター試験が 1 月 16 日（土）、17 日（日）の両日に実施されました。本学会場の志願者数は 755 人となりました。

= 研究助成 =

平成27年度共同研究の受入状況

平成28年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研究題目	民 間 機 関 等
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツのフットベッド用パーツの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
電気電子工学科	教授	柏 達也	市街地におけるMUSIC法を用いた到来波特性の研究	株式会社本田技術研究所四輪R&Dセンター
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社化学品事業部
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	気相成長技術による薄膜作製の共同研究	気相成長株式会社

平成27年度累計89件

平成27年度受託研究の受入状況

平成28年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
社会環境工学科	助教	大野 浩	北極域環境における多圏相互作用の実態解明と気候予測への応用	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	円 2,650,000
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	複数人対話エージェントの評価	アイフォーカス・ネットワーク (株)	72,800

平成27年度累計14件

平成27年度奨学寄附金の受入状況

平成28年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	円 350,000
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	道路の冬期気象特性に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	500,000
マテリアル工学科	助教	浪越 毅	含硫黄ポリビニルエーテルからなる金吸着ゲルの開発のため	公益財団法人寿原記念財団	1,200,000
機器分析センター	准教授	大津 直史	汎用小型レーザーを利用した金属材料表面の選択的窒化技術の開発	公益財団法人天田財団	1,900,000
社会環境工学科	助教	崔 希燮	合成繊維補強セメント系複合材料による寒地コンクリートのひび割れ制御型自己治癒システム構築	公益財団法人LIXIL住生活財団	300,000
情報処理センター	教授	升井 洋志	バスロケーションシステムの研究のため	網走バス株式会社	100,000
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	教育・学術研究助成及び学生の奨学のため	エターナルプレザープ株式会社	500,000

平成27年度累計57件

= 受賞 =

社会環境工学科富山和也助教が 第二十回舗装工学奨励賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科・富山和也助教が、公益社団法人土木学会 舗装工学委員会より、第二十回舗装工学奨励賞を受賞しました。

同委員会では、1996 年以降、年 1 回、舗装工学講演会を開催すると同時に、舗装工学論文集（土木学会論文集 E1（舗装工学））を発刊しています。舗装工学奨励賞は、その論文集の中から、40 歳未満の若手研究者を対象に、優れた研究成果に対して授与されるものです。富山助教は、論文「心拍変動解析に基づく精神疲労を考慮した路面平坦性評価」の成果が認められての受賞となりました。

富山助教の研究は、本学社会環境工学科の川村 彰教授、イタリアのパドヴァ大学（University of Padova）の Dr. Riccardo Rossi、Dr. Massimiliano Gastaldi 並びに Dr. Claudio Mulatti との国際共同研究の一環として、独立行政法人日本学術振興会からの助成（科学研究費助成事業 若手研究（B））により実施しているものです。

従来、舗装路面の評価は、車両走行時の快適性や安全性に立脚したものが主であり、潜在的な精神疲労に及ぼす影響は不明でした。富山助教らは、今回の論文において、

路面性状由来の精神疲労を「受動疲労」と定義し、生体情報として得た心拍変動の解析により、受動疲労に基づく路面の平坦性評価手法について検討しました。本学所有の路面評価型ドライビングシミュレータを用いた実験結果に基づき、心拍変動指標と平坦性の世界標準指標である国際ラフネス指数（IRI）の関係をモデル化することで、車両走行時の時間変化に依存した受動疲労に基づく平坦性評価が可能であることを示しました。

路面の状態は、道路利用者評価に直結し、豊かなモビリティ社会をつくるために欠かせない、道路・交通環境の重要な評価指標です。特に、近年では、人口構造の高齢化及び社会基盤施設の老朽化が深刻化し、移動時の精神的負担を把握することで、ドライバーの疲労軽減や交通事故低減につながるような、道路利用者の視点を取り入れた質的満足度の高い道路整備の必要性が高まっています。

富山助教らの研究成果は、こうした社会的要求に応えるとともに、舗装工学における学術的な貢献が評価され受賞に至りました。



舗装工学講演会で発表する富山助教



舗装工学奨励賞

本学教員・学生が 2015 年度 JC-IGS 論文賞を受賞

(社会環境工学科)

このたび、社会環境工学科の川口貴之准教授、中村大准教授、川尻峻三助教、山下聡教授と、本学大学院生の佐々木貴さん、大学院修了生の小林歩さんが、国際ジオシンセティックス学会日本支部より、2015 年度 JC-IGS 論文賞を受賞しました。

同学会日本支部では、学会活動をより活性化するために、ジオシンセティックスシンポジウムの開催、ジオシンセティックス論文集の作成を行っています。JC-IGS 論文賞は、ジオシンセティックス論文集に掲載されたものの中から、ジオシンセティックスに関する学術及び技術の進展に顕著な貢献をしたと認められる論文の著者に授与されるものです。

2015 年度 JC-IGS 論文賞に選ばれた論文「寒冷地に構築した補強土壁の凍結融解挙動」は、本学教員と大学院生、修了生に加え、共同研究を行っている岡三リビック株

式会社の林豪人氏、安達謙二氏、東京インキ株式会社の雨宮盛児氏、原田道幸氏が共著したものです。この研究は、壁面の「緑化」、寒冷地で問題となる壁面の「凍上現象」による被害軽減の両立を図ることを目指して開発された補強土壁に関するものです。川口准教授らは、ジオセルと呼ばれる立体ハニカム構造体を壁面材に活用し、ジオグリッドと呼ばれる格子状の面状補強材を連結した構造の補強土壁を構築しました。そして、本学構内に幾つかの試験ケースを実際に構築して計測した結果等から、壁面緑化と凍上対策の両立が可能な補強土壁であることを実証することに成功しました。

本学と岡三リビック株式会社、東京インキ株式会社は、2012 年度から共同研究を始めました。これからも協力し合いながら研究を続けていく予定です。



大学構内に構築した補強土壁



JC-IGS 論文賞受賞式

本学学生が北の四大学ビジネスプラン 発表会で優秀賞を受賞

(情報システム工学科)

12月13日(日)、札幌ユビキタス協創広場 U-cala (内田洋行ショールーム) で「北の四大学ビジネスプラン発表会 -北の大地を大学連携で結ぶ-」が開催されました。本学からは1グループ4名が出場し、優秀賞を受賞しました。

「北の四大学プロジェクト」とは、本学と小樽商科大学、公立はこだて未来大学、帯広畜産大学の道内単科系四大学のネットワークを強化し、大学生を主役とした新しい地域貢献プロジェクトに関する取り組みや成果を発信するとともに、新たな地域貢献事業立ち上げに結びつけようという試みです。今回の発表会は、今年度の各大学による活動の集大成を報告する機会でもありました。発表会には、主催者の小樽商科大

学和田健夫学長とともに本学高橋信夫学長も出席しました。

本学から出場した情報システム工学科3年生の江頭泰陽さん、岡村慎さん、加藤紗瑛さん、黒田英慈さんは、「KCLOSS: 北見カレッジライフサポートサービス計画 -オホーツク圏地域・観光情報基盤へのはじめの第一歩-」と題し、オホーツクエリアに特化した情報ポータルを構築するというプランを発表しました。同学科の榊井文人准教授のアドバイスを受けながら、半年以上をかけてビジネスプランの構築に取り組み、その結果、見事優秀賞を受賞しました。

今後も、このプロジェクトを継続し、道内大学の連携を強めるとともに、地域への貢献につなげていきたいと考えています。



発表を行う北見工大グループ



受賞後に記念撮影

= 諸報 =

学長と事務職員との意見交換会を開催

(総務課)

12月7日(月)、学長と事務職員との意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、学長と事務職員が大学運営における現況や期待について意見交換するとともに、ざっくばらんな形で事務職員の現況等を学長に知っていただくことを目的としたもので、今回初めて実施されました。

係長以下の事務職員47人が参加し、まず、高橋信夫学長から大学のキャンパスの成り

立ち、法人化後から第3期中期目標・中期計画策定に向けた取組状況等が説明されました。その後、本学の課題となっている事項等について活発な意見交換が行われました。

意見交換会終了後には、会場を移して懇親会が行われました。懇親会では、日頃学長と話すことの少ない若手職員が積極的に会話に参加する姿が見られ、和やかな雰囲気のまま終了しました。



意見交換をする高橋学長



意見交換会の様子

研究ユニット研究報告会を開催

(研究推進機構)

12月17日(木)、本学多目的講義室において「研究ユニット研究報告会」を開催し、教職員及び学生50名が参加しました。

本報告会は、研究ユニットが実施しているプロジェクト研究の内容を全学的に紹介することにより、研究推進機構における研究活動の活性化及び教職員の研究に対する意識の向上を図り、本学の研究を推進することを目的としています。平成25年度に設

置された研究ユニットも今年で3年目となり、活動の最終年度を向かえました。

研究報告会では、吉田孝研究推進機構長の挨拶に続き、各ユニットから発表が行われました。発表終了後には、吉田研究推進機構長から講評があり、また、次年度にはこれまでの研究ユニットの活動を評価するとともに、研究ユニット組織の見直しを行う旨の説明がありました。

発表順	研究ユニット名	発表者
1	冬季スポーツ工学研究ユニット	機械工学科 鈴木聡一郎 教授
2	表層型メタンハイドレート研究ユニット	社会環境工学科 山下聡 教授
3	水環境工学研究ユニット	社会環境工学科 駒井克昭 准教授
4	地域分散エネルギー研究ユニット	電気電子工学科 小原伸哉 教授
5	工農連携研究ユニット	バイオ環境化学科 佐藤利次 准教授
6	医工連携研究ユニット	機械工学科 柴野純一 教授
7	太陽光エネルギー変換・効率利用ユニット	マテリアル工学科 平賀啓二郎 教授
8	雪氷研究推進ユニット	社会環境工学科 亀田貴雄 教授
9	複雑進化系設計ユニット	情報システム工学科 榮坂俊雄 教授



吉田研究推進機構長の挨拶



柴野教授（医工連携研究ユニット）の発表

冬休み親子工作教室を開催

(技 術 部)

1月6日(水)から1月9日(土)の4日間、「冬休み親子工作教室」を開催しました。

この工作教室は、工作を通してその仕組みを知り、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的としています。5回目の開催となった今年は、定員の倍を超える申込があり、抽選で参加者を決定しました。

参加した47組の親子は、「ガラス彫刻」「木工パズル」「キーストッカー」「ラジオ作製」の中から希望のテーマを選び、製作に取り組みました。親子共同で製作した作品が完成すると、とても喜んでいました。

実施後の児童を対象にしたアンケートで

は、「工作は楽しかったですか」の設問に、「とても楽しかった」「楽しかった」を合わせると98%という集計結果となりました。また、保護者を対象としたアンケートでは、「参加してみてどうでしたか」の設問に、全員が「とても良かったと思う」と回答いただき、好評のうちに終えることができました。

関係者各位の尽力で、今年も事故や怪我もなく無事終了することができました。今後もこの事業を継続して開催したいと考えています。



ガラス彫刻の製作



木工パズルの製作



キーストッカーの製作



ラジオの製作

小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施

(研究協力課)

1月8日(金)、本学物理実験室において、小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施しました。

この研修は、本学と北見市教育委員会が平成23年8月に締結した連携協定に基づく取組みの一つです。今回はリフレッシュ理科教室事業の一環として、公益社団法人応用物理学会との共催で実施しました。

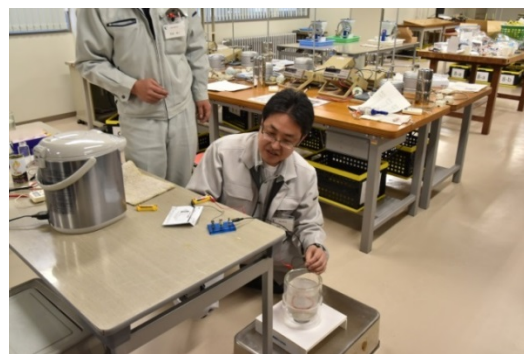
研修では、本学技術部の須澤啓一作業環境測定係長、他4人を講師として、1. 手回

し発電機を理解する実験、2. LED と豆電球に関する実験、3. コンデンサに関する実験、4. 液体窒素を使用した演示実験を行いました。

小中学校教諭等10人が参加し、研修実施後のアンケートでは「冬休み明けにすぐ使えるものであったのでさっそく活用していきたい」「LED とコンデンサのイメージができてよかった」等の声が寄せられました。



手回し発電機を理解する実験



液体窒素を使用した演示実験

教員推薦図書企画展示を開催

(情報図書課)

図書館では、1月13日(水)から3月25日(金)まで、「教員推薦図書」の企画展示を実施しています。

この展示は、本学教員が選定する学生用図書を紹介するもので、毎年行っています。教員の協力のもと、普段図書館職員が選定するなかでは見落とされがちな専門分野の

図書や、シラバスに載っていない講義関連図書を多くそろえることができました。

気になるテーマの図書や講義に関係ある図書を見つけたのか、展示開始から多くの学生が足を止めています。今後も、教員の協力を得ながら学生向けの図書の充実を図っていきます。



展示の様子

地域を彩る食物語に出展

(社会連携推進センター)

1月13日(水)から18日(月)までの間、人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語(大学からの発信こだわりのあるおいしいもの販売!!)」が開催されました。

今年で6回目となるこのイベントは、北見市産学官連携推進協議会が主催し、本学は共催として参画しているものです。北見市のコミュニティプラザパラゴまちきた大通ビルを会場に、例年、高知物産展と同時開催されています。

本学からは、機械工学科の星野洋平准教授が「オホーツク地域から発信する農業・機械・情報産業の集積と融合による次世代農業の可能性」と題して講演を行った他、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエーター育成事業の成果を報告しました。本学の他にも長崎大学、香川大学、宇都宮大学、東京農

業大学、帯広畜産大学が出展し、また、パネル展示では新たに愛媛大学が参加しました。

また、14日(木)、15日(金)の両日には、各大学で行われている人材育成事業の受講生による、恒例のプレゼンテーションと開発商品の販売が行われました。さらに16日(土)以降は、受講生の販売実習を兼ねて、北見丸麦緑茶や白花豆カステララスク等開発品の市場調査が行われました。

本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただく良い機会となりました。また、参加大学・機関にとっても、「食と健康」「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となりました。



講演する星野准教授



学生による開発品の市場調査



会場の様子

札幌モーターショー2016 に出展

(社会連携推進センター)

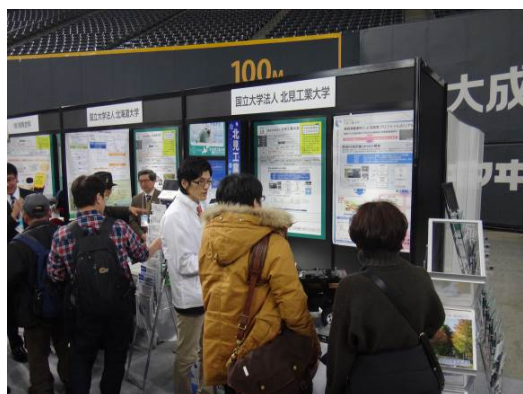
1月22日(金)から24日(日)の3日間、札幌ドームを会場に札幌モーターショー2016が開催され、本学は「北海道自動車産業ゾーン」に出展しました。

札幌モーターショーは、平成24年から隔年で開催されており、本学は当初から出展しています。北海道自動車産業ゾーンは、北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部の主催で設けられており、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的としています。今回は、本学その他、北海道大学や公的試験研究機関、北海道内企業により18ブースを設け、それぞれが取り組む自動車関連技術の紹介を行いました。

本学からは、大学の紹介とともに、社会環境工学科の川村彰教授と富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面プロフ

ァイルのリアルタイム計測」の開発技術について、研究の発展に向けたマッチングを目的に展示を行いました。また、北海道自動車産業ゾーンで行われた「子どもクイズステージ」において、本学マネジメント工学コースの学生が、本学が取り組む自動車に関連する研究を基にしたクイズを出題しました。

会場には、3日間で10万6千人以上の方が来場し、北海道自動車産業ゾーンにも絶え間なく多くの方の来場がありました。本学のブースには、自動車の技術に興味を持つ企業の方はもちろんのこと、同窓生や在学生、さらには大学受験を控える高校生とその家族も訪れました。本学の教育や研究状況について知っていただく等、技術広報だけでなく大学広報としても価値の高い場となりました。



本学ブースでの技術展示



子ども向けクイズステージ

事務職員のための講演会を開催

(総務課)

1月29日(金)、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課支援第二係長の田畑潤司氏を講師としてお招きし、事務職員のための講演会を開催しました。

「国立大学法人等を巡る最近の動向について」と題した本講演では、国立大学に期待される役割及びこれまでの国立大学改革の流れを踏まえ、第3期中期目標期間における国立大学のあり方について、各大学の強み・特色を最大限に活かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することで持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す必

要があること、また、それらを国民に分かる形で可視化することが重要であること等が、統計データを用いながら説明されました。

本学では、職員研修の一環として、従来から事務職員のための講演会を開催しています。今回の講演に参加した職員は、大学の機能強化に向けた自主的・自律的な改善・発展を促す仕組みを構築するために、一人一人が主体的に大学改革に取り組む必要があることを強く自覚しました。



講演する田畑係長



受講者の様子

= 日誌 =

12 月

- 3日 教務委員会
- 4日 就職ガイダンス
- 7日 社会連携推進センター運営会議、オホーツク
産学官融合センター事務局会議
- 8日 地域連携・国際交流委員会、入学者選抜委員
会
- 9日 教授会、研究科委員会、推進入試合格発表、
編入学（第2次募集）合格発表
- 10日 教務委員会
- 14日 発明審査委員会
- 16日 教育研究評議会
- 17日 経営協議会、学長選考会議、役員会、研究ユ
ニット研究報告会
- 22日 学生よろず相談室及び障がい学生支援室合同
会議

1 月

- 5日 研究推進機構統括会議
- 6日 社会連携推進センター運営会議
- 7日 不正防止対策室会議、教務委員会
- 8日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 16日 大学入試センター試験（～17日）
- 18日 推薦入試入学手続（～22日）、私費外国人留
学生入試出願受付（～22日）、大学院入試出
願受付（～22日）
- 20日 教育研究評議会
- 22日 就職ガイダンス
- 23日 高大連携事業「数学補習講座」
- 25日 一般入試出願受付（～2月3日）
- 26日 発明審査委員会
- 30日 高大連携事業「数学補習講座」